

乾燥水酸化アルミニウムゲル細粒

乾燥水酸化アルミニウムゲル細粒「ケンエー」

貯法：気密容器・室温保存
使用期限：容器等に表示
注意：「取扱い上の注意」の項参照

承認番号	(61AM)2174
薬価収載	1986年3月
販売開始	1986年3月
再評価結果	1982年1月

日局 乾燥水酸化アルミニウムゲル細粒

※※【禁忌（次の患者には投与しないこと）】
透析療法を受けている患者〔長期投与によりアルミニウム脳症、アルミニウム骨症、貧血等があらわれることがある。〕

【組成・性状】

〈組成〉

1g中 日局乾燥水酸化アルミニウムゲル細粒 1g含有。

〈性状〉

白色の細粒で、におい及び味はない。

【効能・効果】

下記疾患における制酸作用と症状の改善

胃・十二指腸潰瘍、胃炎（急・慢性胃炎、薬剤性胃炎を含む）、
上部消化管機能異常（神経性食思不振、いわゆる胃下垂症、胃酸過多症を含む）

尿中燐排泄増加に伴う尿路結石の発生予防

【用法・用量】

乾燥水酸化アルミニウムゲルとして、通常成人1日1～3gを数回に分割経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

※※【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

(1)リン酸塩の欠乏している患者〔アルミニウムは消化管内でリン酸塩と結合し、その吸収を阻害する。〕

※※(2)腎障害のある患者〔長期投与によりアルミニウム脳症、アルミニウム骨症、貧血等があらわれるおそれがあるので、定期的に血中アルミニウム、リン、カルシウム、アルカリフォスファターゼ等の測定を行うこと。〕

2. 相互作用

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
クエン酸製剤 クエン酸カリウム、クエン酸ナトリウム等	血中アルミニウム濃度が上昇することがあるので、同時に服用させないなど注意すること。	キレートを形成し、アルミニウムの吸収が促進されると考えられる。
血清カリウム抑制イオン交換樹脂 ポリスチレンスルホン酸カルシウム、ポリスチレンスルホン酸ナトリウム	血清カリウム抑制イオン交換樹脂の効果が減弱するおそれがある。	アルミニウムイオンと非選択的に交換すると考えられる。
テトラサイクリン系抗生物質 ニューキノロン系抗菌剤 イソニアジド ジギタリス製剤 フェニトイン フェノチアジン誘導体 β-遮断剤 非ステロイド系解熱消炎鎮痛剤等	同時に服用することにより、これら併用薬剤の吸収を遅延又は阻害するおそれがある。この作用は薬剤の服用時間をずらすことにより、弱まるとの報告がある。	本剤が併用薬剤とキレートを形成又は、吸着し、消化管からの吸収を遅延又は阻害する。
ペニシラミン	ペニシラミンの効果が減弱するおそれがある。	同時投与した場合、ペニシラミンの吸収率が低下する。
ミコフェノール酸モフェチル	ミコフェノール酸モフェチルの作用が減弱するおそれがある。	併用により、ミコフェノール酸モフェチルの吸収が減少すると考えられる。

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
甲状腺ホルモン剤 レボチロキシシンナトリウム等	同時に服用することにより、これら併用薬剤の吸収を遅延又は阻害することがある。これらの作用は薬剤の服用時間をずらすことにより、弱まると考えられる。	消化管内で本剤と吸着することにより、これらの薬剤の吸収が阻害される。
胆汁酸製剤 ウルソデスオキシコール酸、ケノデオキシコール酸	併用薬剤の排泄が遅延することが知られている。	尿のpH上昇による。

3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1)消化器：便秘、悪心・嘔吐（頻度不明）等があらわれることがあるので、このような場合には減量、休業又は緩下剤の併用等の適切な処置を行うこと。

※※(2)長期投与：長期投与によりアルミニウム脳症、アルミニウム骨症、貧血（頻度不明）等があらわれるおそれがあるので、慎重に投与すること。

4. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので用量に注意すること。

※【取扱い上の注意】

※〈安定性試験〉¹⁾

最終包装製品を用いた長期保存試験（室温、4年間）の結果、通常の市場流通下において4年間安定であることが確認された。

【包装】

500g、1kg、5kg（1kg×5）

※【主要文献】

※1)健栄製薬株式会社 社内資料：乾燥水酸化アルミニウムゲル細粒の経時安定性について

※【文献請求先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。
健栄製薬株式会社 学術情報部
〒541-0044 大阪市中央区伏見町2丁目5番8号
電話番号 (06) 6231-5626
FAX番号 (06) 6204-0750